

案件概要書

2013 年 6 月 25 日

国際協力機構東南アジア・大洋州部東南アジア第四課

1. 案件名（国名）

国名：ミャンマー連邦共和国

案件名：鉄道中央監視センターシステム整備計画

(The Project for Installation of Operation Control Center System)

2. 事業の背景と必要性

(1) 当該国における鉄道セクターの開発実績（現状）と課題

ミャンマー連邦共和国の鉄道網の総延長は 5,876km に及び、その全ての路線をミャンマー国鉄が管理・運営している。幹線となる鉄道路線は英国植民地時代にほぼ完成しているが、既存設備の更新に対する予算の割合が少なく、列車走行速度低下・遅延・脱線事故等が生じており輸送サービスの低下が課題となっている。特に運行管理においては、指令所と各駅の連絡手段が音声に限られ、車両乗務員との連絡手段もなく、指令所は主に運行実績の把握を行うに過ぎない。また信号機が常設されていない駅もあり、踏切に関してもゲート操作が手動に限られ、列車の運行速度が大幅に遅くなっている。今後の運転速度の向上、運転本数の増加を考えた場合、指令所を中心とした運転管理体制の強化は必須となり、指令所・駅長・乗務員間の信頼性の高い連絡手段、信号機、踏切制御等の運行管理設備の充実が必要である。

(2) 当該国における鉄道セクターの開発政策と本事業の位置づけ及び必要性

同国は、①農業を基盤とした工業化、②公平・均衡な成長、③統計の改善、④成長エンジンとしての貿易・投資の促進を主要政策として掲げており、本計画は①、②、及び④にあたる経済インフラに位置づけられる。

(3) 鉄道セクターに対する我が国の援助方針

我が国は平成 24 年 4 月に制定された「対ミャンマー経済協力方針」において、「持続的成長のために必要なインフラや制度の整備等の支援」を支援の中心分野の一つに位置づけており、本事業は鉄道輸送サービスの改善、沿線に位置する地域の経済活動の活性化、鉄道沿線の公共交通サービス改善につながるところ、上記協力方針と合致する。JICA の援助実績として、有償資金協力「鉄道近代化計画」「鉄道近代化事業(2)」、技術協力「鉄道安全性・サービス向上プロジェクト」が挙げられる。また、「全国運輸交通プログラム形成準備調査」で「マンダレー・ヤンゴン鉄道整備事業（仮）」にかかる実現可能性調査を実施予定である。

(4) 他の援助機関の対応

ドイツは鉄道施設の維持管理に関する技術支援実績がある。また、中国が車両（機関車・客車）工場建設、韓国・インドが車両調達等を借款により支援している。詳細は、協力準備調査にて確認。

3. 事業概要

(1) 事業の目的

本事業は、信号システムや中央監視センターの整備等の実施により、安全で高速な列車運行、輸送能力増強を図り、もって同国の経済発展に寄与するものである。

(2) プロジェクトサイト/対象地域名

ヤンゴン市、ネピドー市

- (3) 事業概要：詳細は協力準備調査にて確認
 - 1) 土木工事：信号等の設置
 - 2) 機材：信号保安設備（信号等）、集中制御版・集中表示盤、通信システム
 - 3) 施設：中央監視センター
 - 4) 上記にかかるコンサルティングサービス：詳細設計、入札補助、施工監理
- (4) 事業実施体制
鉄道運輸省（Ministry of Rail Transportation）傘下のミャンマー国鉄（Myanma Railways:MR）
- (5) 環境社会配慮・貧困削減・社会開発
 - 1) 環境社会配慮
 - ① カテゴリ分類:C
 - ② カテゴリ分類の根拠: 本事業は「国際協力機構環境社会配慮ガイドライン」（2010年4月公布）上、環境への望ましくない影響は最小限と判断されるため。
 - 2) 貧困削減促進等：協力準備調査にて確認。
- (6) 他スキーム、他ドナー、他案件等との連携：2013年から技術協力「鉄道安全性・サービス向上プロジェクト」を開始し、運営・維持管理能力を強化する予定である。
- (7) その他特記事項：特になし

4. 過去の類似案件の評価結果と本事業への教訓

- (1) 類似案件の評価結果
ミャンマー国「鉄道近代化事業（2）」の事後評価等では、ミャンマー国鉄は恒常的なスペアパーツ不足と技術者の不足という問題を抱えており、維持管理体制の改善を図ることが課題であると指摘されている。
- (2) 本事業への教訓
上記教訓を踏まえ、今後実施予定の技術協力プロジェクト「鉄道安全性・サービス向上プロジェクト」を活用し、鉄道設備の維持管理における方針策定や技術力の向上を図る。また運営改善を通じ技術者が十分に配置されるように努める。加えて長期的なスペアパーツの確保について、調査において検討する予定。

以上

〔別添資料〕地図



(地図出典： AutoNavi, Google, 2013)